

令和2年度「ふくしま青少年育成セミナー」実施状況

令和2年度「ふくしま青少年育成セミナー」は、令和3年2月13日（土）、第4回「みんなちがって みんないいⅡ」（講師：医療創生大学心理学部教授 山本 佳子 氏）で幕を閉じました。御陰様をもちまして皆様の御支援のもと、全4回、全て滞りなく実施することができました。

思春期から青年期にかけての子どもたちが、自立に向け、心身ともに健やかに成長することを願い、今年度は「若者支援」「幼児教育」「情報化社会」「若者の自立支援」の四つのテーマに基づいて企画し開催しました。講師の皆様の卓越した知見や洞察力、観察力などにより、参加者を魅了してやまない実り多い育成セミナーを、参加者の皆様にご提供することができたと思います。（アンケートの結果、4回とも参加者の満足度は80%を超えております。）

次年度も皆様の御要望を鑑み且つ時代の要請に応じた育成セミナーを企画実践していきたいと思しますので御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

《第1回》 令和2年8月9日（日）【若者応援】
演 題 「古関裕而斗と若者への『エール』」
講 師 日本大学商学部准教授 刑部 芳則 氏)
参加者数 91名

参加者の声

- 若い方たちへのエールにつながっている点と「さくらんぼ大将」の曲、初めて聴くことができ、大収穫でした。
- 名誉市民の業績を知るとともに、古関氏の生き方にふれ感動しました。古関メロディーはエールだったと納得しました。
- 古関裕而の素晴らしさと刑部先生の思いが伝わるとても良いセミナーでした。

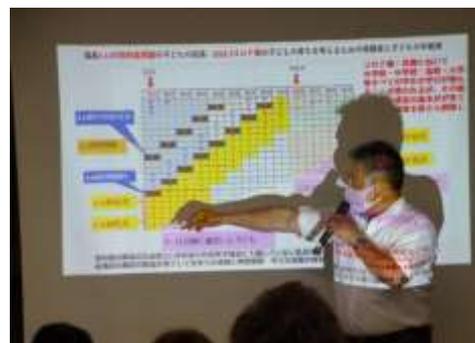


【第1回 刑部 芳則先生】

《第2回》 令和2年9月5日（土）【幼児教育】
演 題 「幼児教育・保育」の昔と今
講 師 福島県認定こども園協会会長・学校法人まゆみ学園理事長 古渡 一秀 氏
参加者数 44名

参加者の声

- 大震災、コロナ禍での母子の状態、まったく同じでこれからの子どもの発達に不安。先を見据えた支援を考えて行かねばと改めて思いました。
- 素晴らしいお話を聞いて大満足です。本県の課題、不安・・・いろいろありますが、つなげ生かしていかなばと思いました。
- 「親育ちの支援を地域でつくっていく」という言葉にどっさりしました。まさにその通りだと思います。安心して子育てができる環境や仕組みの中に心のケアに重点を置いてもらえたらよいと思います。



【第2回 古渡 一秀先生】

《第3回》 令和2年11月28日（土）【情報化社会】

演 題 「有害情報から子どもを守る」～ネット・スマホをめぐる問題から～

講 師 医療創生大学心理学部教授 福島県警察サイバー犯罪対策アドバイザー 中尾 剛 氏

参加人数 56名

参加者の声

- 早めの情報モラル教育の必要性和インターネット社会を生きるために必要な力については広く大人・子ども全体が身につけなければならないと感じた。
- 「訴える」熱意ある講演であり、有害が十分に分かりました。喫緊の課題への対応のセミナーでした。
- 親がこのような内容を学ぶことの重要性を知りました。「子どもを信じる」ことは大切ですが、使い方を教えられるのも親の役割と思いました。



【第3回 中尾 剛先生】

《第4回》 令和3年2月13日（土）【若者の自立支援】

演 題 「みんなちがって みんないいⅡ」

講 師 医療創生大学心理学部教授 山本 佳子 氏

参加人数 49名

参加者の声

- 発達障がいの方に対する自分の考え方に柔軟性ができたように感じました。今日の講演内容や資料を自宅でもとめたいと思います。自分自身の今までの対応を客観的に見直す、よい機会になりました。ありがとうございました。
- 他者理解、自己理解、互いに理解することの重要性について、説明がわかりやすかったのでよく理解できました。
- 人づきあいの中で相手を知り、自分を知ることは、なかなか知られていませんが、とても大切で重要な事と思っています。貴重なお話ありがとうございました。
- 今日はとても考えさせられました。自分の家族、仕事場、すぐには無理かも知れませんが、一つ一つ自分でもできるように意識していきたいと思っています。



【第4回 山本 佳子先生】

=令和2年度 相談業務とひきこもりについて=

～福島県青少年総合相談センター・福島県ひきこもり支援センターの相談状況～

今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により生活様式が大きく変わり、青少年を取り巻く環境もより多様化、複合化、深刻化しています。これらの課題に対する支援のあり方にも変化や工夫が求められ、両センターともに、今何ができるのか、また、困難を抱えているご本人やご家族が求める支援とは何かを改めて見直す機会にもなりました。

以下は、今年度の両センターの相談状況についてまとめたものです。



1 相談件数の推移（令和2年12月末現在の延件数1, 793件）

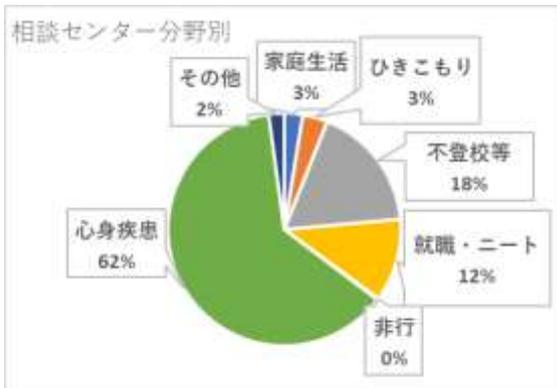
- ・緊急事態宣言が発出され、不要の外出を控えた年度当初は相談件数が減少したが、6月以降は増加している。

- ・新相談形態として、今年度からラインでの相談受付やオンライン相談を始めた。両センターとも現時点での相談件数は数件である。



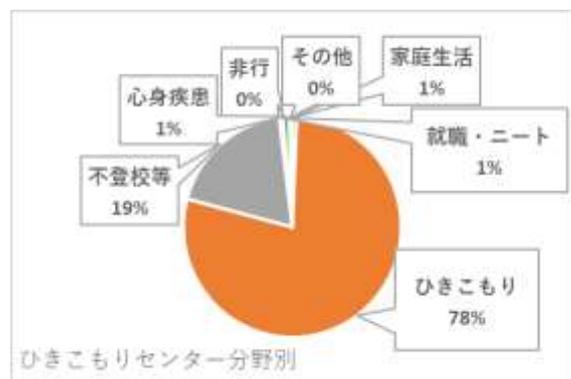
2 分野別相談件数（令和2年12月現在）

(1) 青少年総合相談センター



- ・青少年から幅広い相談を受けているため相談内容は多岐にわたる。
- ・発達障害は身心疾患に含まれ、31%である。

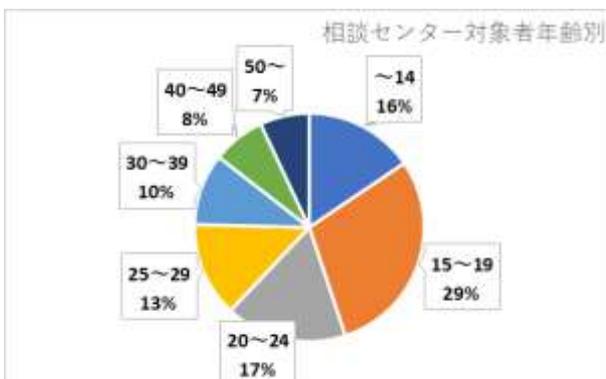
(2) ひきこもり支援センター



- ・支援対象をひきこもりに特化しているため、ひきこもりが約8割を占める。

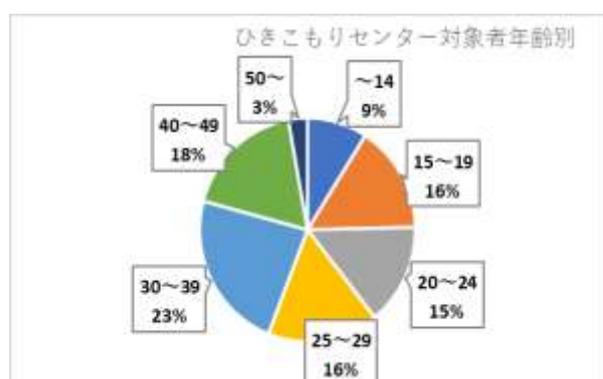
3 対象者（実件数）年齢別（令和2年12月現在）

(1) 青少年総合相談センター



- ・20歳未満が45%である。
- ・30代までが全体の85%を占める。

(2) ひきこもり支援センター



- ・20代からの相談が最多である。
- ・40歳未満の相談が約8割を占める。

令和2年度の諸事業を振り返って

新型コロナウイルスの影響下、令和2年度事業のまとめの時期となりました。県民会議では、青少年の自立に向けた営みの充実を図るために令和2年度重点推進事項5項目について、家庭・学校・地域社会や関係機関、諸団体等との連携のもと、以下の各事業に積極的に取り組んできました。

1 「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」の推進

- ◇「大人への応援講座」（県内4市町で8講座を開設。）
11月に講師会議を開催し、講師の皆さんによる情報交換を行いました。
- ◇「ふくしま青少年育成セミナー」 8, 9, 11, 2月の計4回、講演会を行いました。

2 「地域の子どもは、地域で見守り育てる運動」の推進

- ◇「家庭の日」作文、絵画、ポスター作品募集
1, 843作品（作文1, 581点、絵画196点、ポスター66点）の応募がありました。
- ◇「少年の主張福島県大会」
9月25日(金)、第42回大会を会津美里町「じげんホール」で開催、県内各地の中学校より11, 097点の応募がありました。二本松市立安達中学校の菊地瑠奈さんが、全国大会で奨励賞を受賞しました。

3 青少年関係機関・団体との連携強化

- ◇「第42回福島県青少年健全育成推進大会」
11月19日(水)とうほう・みんなの文化センターで新型コロナウイルス感染防止ため参加者数に配慮して開催しました。
- ◇「福島県青少年育成県民会議会長表彰」
青少年健全育成や指導に貢献された個人23名と4団体、市村民会議2、青少年育成功労者9名を表彰いたしました。
- ◇「県民会議活動の推進」
 - ・「理事会」, 「総会」(5月14日)は書面にて実施
 - ・内閣府事業(中央研修大会)等は新型コロナウイルス感染予防ため中止
- ◇「市町村民会議等との連携の強化と広報活動の推進」
 - ・「少年の主張」, 「家庭の日」の作品集発刊
 - ・広報誌「青少年ふくしま」(第67号~第69号)の発行…バックナンバーはHPに掲載
 - ・市町村民会議等への訪問
《3月》○相双・県中地区3市1町 ○会津地区2市2町

4 青少年を取り巻く有害環境対策の推進

- ◇社会環境浄化活動「青少年健全育成県民総ぐるみ運動」の推進（「青少年ふくしま」の頒布、陶芸教室、電話・面接相談等）
- ◇「大人への応援講座」・「ふくしま青少年育成セミナー」等での啓発運動

5 社会生活等において、さまざまな困難を有する子ども・若者への支援

- ◇「福島県青少年総合相談センター」及び「福島県ひきこもり支援センター」の運営
※ 「福島県青少年総合相談センター」並びに「福島県ひきこもり支援センター」は今年度よりLINE（受付専用）及びオンラインによる相談を始めました。

【連絡・問い合わせ先】	住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5(福島県青少年会館内)
TEL 024-546-0002	FAX 024-546-8311
Mail f-youth@io.ocn.ne.jp	HP アドレス http://www.fukushima-youth.com/